

2023年度 環境経営レポート

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日



ケンエイ産業株式会社

作成日：2024年7月1日

環境経営方針

〈基本理念〉

当社は産業廃棄物の中間処理業を通じて環境の保全と
循環型社会形成に資するため、環境負荷の継続的低減
産業廃棄物の適正処理とリサイクルを継続的に推進し全従業員一丸
となって環境保全に努めます。

〈環境保全への行動方針〉

1. 具体的に次のことに取り組みます。

- ① 電力、燃料等の削減により二酸化炭素排出量削減に取り組みます。
- ② 受け入れ産業廃棄物のリサイクル推進。
- ③ 節水に取り組みます。
- ④ 清掃活動の推進に努めます。
- ⑤ 自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する項目として
は、社有車の排気ガスがある。これを減らす。
- ⑥ 廃棄物排出量の削減を推進します。

これらについて、環境目標を定め定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。

3. この環境経営方針を達成するため、環境方針を従業員に周知します。

制定日 2013年4月1日
見直日 2022年4月1日

ケンエイ産業株式会社
代表取締役 張 良彦

1 会社概要

(1) 事業所名及び代表者名

ケンエイ産業株式会社
代表取締役 張 良彦

(2) 所在地

本社・工場 兵庫県尼崎市鶴町7番15号
第2工場 兵庫県尼崎市鶴町7番11・12号(本社の筋向かい)

(3) 環境管理責任者氏名及び担当連絡先

環境管理責任者 専務取締役 濱松 修弘
担当連絡先 06-6411-6020

(4) 事業内容

産業廃棄物中間処理業
リサイクル製品製造販売
(優良産廃処理業者認定制度 2014年10月18日 取得)

(5) 事業の規模

法人設立年月日 平成6年6月1日
資本金 1,000 万円
事業年度 8月1日～7月31日

従業員・建物規模	本社・工場	第2工場
従業員	5名	8名
延べ床面積	1,800 m ²	1,325 m ²

売上高 611 百万円(2023年度)

受託した産業廃棄物の処理量 2023年4月1日～2024年3月31日

廃棄物受入量	256,118 t	内 訳	
廃棄物再生処理量	256,118 t	うち再資源化量	255,467 t
廃棄物再生処理後の 廃棄物の最終処分量	651 t	うち混合ごみ*	216 t
		うち鉄筋等、有価処分	435 t
再生材搬出量	255,467 t		

*221t = ごみ154t + レンガ62t

(6) 許可内容

許可区分	許可行政	許可番号	許可の年月日 及び有効年月日	廃棄物の種類
産業廃棄物 中間処理業 (破砕)	尼崎市	第7121-024426	令和3年10月18日 令和10年10月17日	がれき類 コンクリート塊 アスファルト塊 自然石 (再生利用可能な物)

(7) 認証登録範囲

- ・産業廃棄物中間処理業、リサイクル製品製造販売
- ・本社・工場、第2工場

2 処理施設の状況

許可番号	912011
種 類	がれき類の破砕施設
処理能力	1280t/日(8時間)
保管面積 及び保管上限	1831.2m ² 5509.81m ³

主要設備

名称	設備の内容
がれき類(コンクリート、アスファルト)	原石メインホッパー1台 1次・2次破砕機各1台 振動フィーダ1台
再生処理設備	振動篩 1台 磁選機 2台 集じん機 2台

車両・機材

車 種	台 数	備 考
ホイローダー(2W-180型)	2台	搬出材、積み込み
油圧ショベル(ZW-240)	1台	原石投入
油圧ショベル(ZW-200)	1台	原石小割り
油圧ショベル(ZW-120)	1台	製品積み上げ
スーパー(AM9DⅢ)	1台	近隣道路、場内清掃

3 処理料金

処理料金については、引取場所、品目等により異なりますので、電話等によりお問い合わせ下さい。廃棄物処理費用は、お見積書を提出いたします。

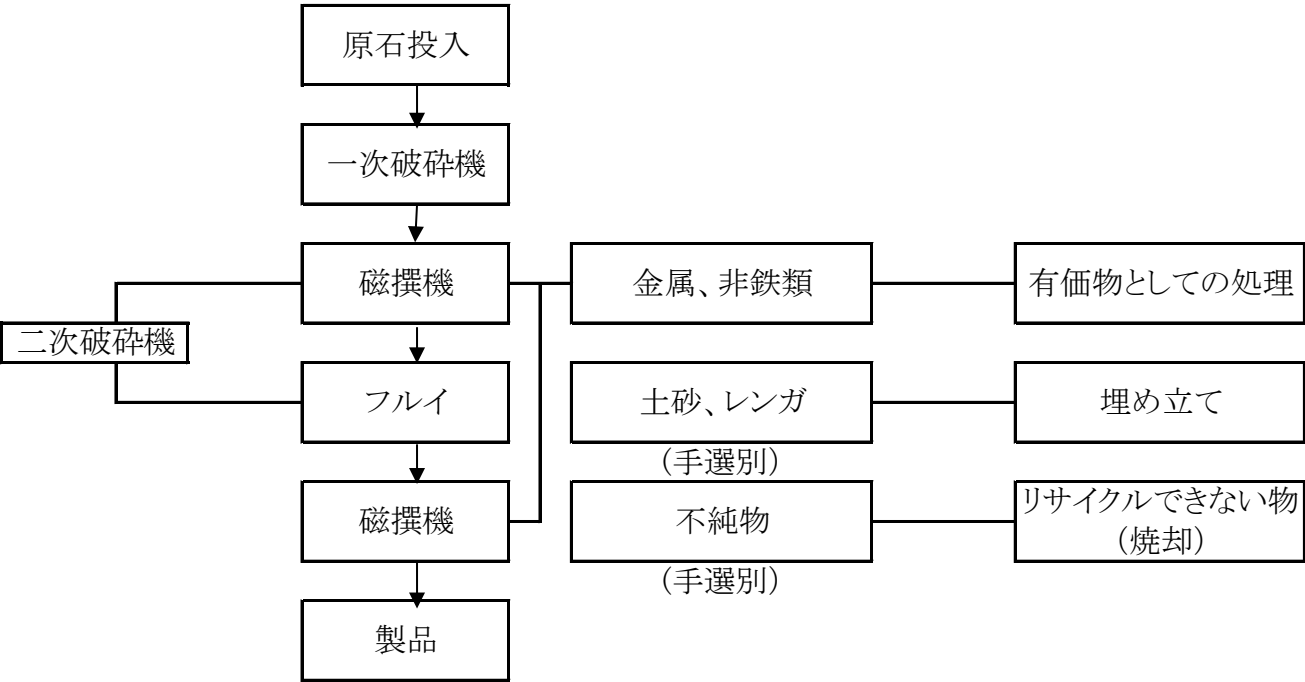
お問い合わせ先

〒660-0092 尼崎市鶴町7-15 ケンエイ産業株式会社
TEL(06)6411-6020 FAX(06)6411-5207

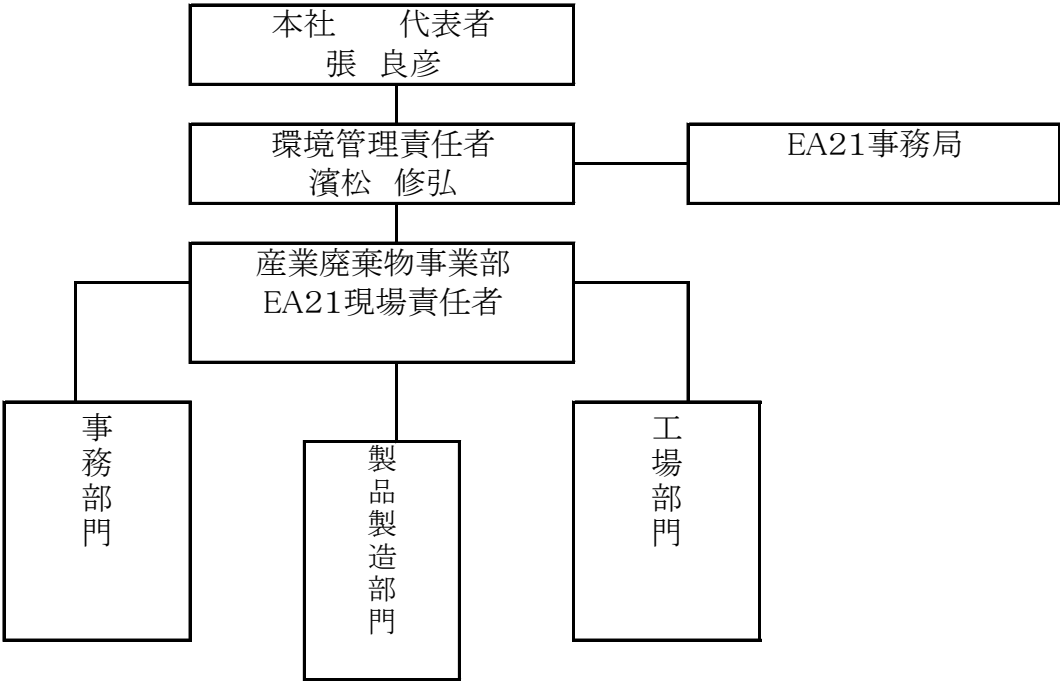
4 再生製品

再生砕石(RC-40)(RC-30)(RM-30)

5 廃棄物処理フロー



6 EA21組織体制



7 職制

役 職	役割・責任・権限
代表取締役(社長)	全体総括、環境経営方針設定 全体の評価と見直し 環境管理責任者の任命 環境活動に必要な資源の確保
環境管理責任者	全体の把握及び社長への状況報告 環境経営マネジメントシステムの構築と運用
EA21環境責任者	目標達成に向けた推進役 ・目標に対する実績の把握 ・問題点の抽出及び原因の探求、追及 ・対策の立案 ・社員への啓蒙・教育
環境事務局	EA21文書及び記録類の作成・維持・管理 電力・燃料(CO2削減を含む)・節水・グリーン購入・清掃等の管理 (自らが提供するサービスとして社有車の排気ガス管理を含む) 環境管理責任者の補佐
従業員	環境活動の推進

8 環境経営目標

当社における2020年4月から2021年3月までの実績を環境への負荷の自己チェックを基に把握し、2022年度から向こう4年間の環境目標を下記のとおりを設定し、2013年度、4月より環境活動に取り組んでいます。

全社目標						
項目	単位	実 績				
		2020年度 2020.4～2021.3	2022年度 2022.4～2023.3	2023年度 2023.4～2024.3	2024年度 2024.4～2025.3	2025年度 2025.4～2026.3
二酸化炭素排出量削減	kg－ CO 2	492161	470506	470014	469522	469029
			(4.4%削減)	(4.5%削減)	(4.6%削減)	(4.7%削減)
電気使用量低減	kWh	288241	275558	275270	274982	274694
			(4.4%削減)	(4.5%削減)	(4.6%削減)	(4.7%削減)
ガソリン使用量低減	L	1761	1684	1682	1680	1678
			(4.4%削減)	(4.5%削減)	(4.6%削減)	(4.7%削減)
軽油使用量低減	L	151842	145161	145009	144857	144705
			(4.4%削減)	(4.5%削減)	(4.6%削減)	(4.7%削減)
都市ガス使用量低減	Nm3	25	24	23.9	23.8	23.7
			(4.4%削減)	(4.5%削減)	(4.6%削減)	(4.7%削減)
産業廃棄物のリサイクル 化の促進	—	—	リサイクル率			
			100%	100%	100%	100%
節水	m3	1600	1530	1528	1526	1525
			(4.4%削減)	(4.5%削減)	(4.6%削減)	(4.7%削減)
廃棄物量の削減	T	927	926	925	924	923
			(0.1%削減)	(0.2%削減)	(0.3%削減)	(0.4%削減)

産業廃棄物のリサイクル化の令和6年推進(%)＝中間処理量総量に対するリサイクル比率

グリーン購入の推進は購入案件が発生した場合に極力グリーン購入につながるように努めます。

燃料は、事務所・工場を合計した数値である。また燃料はガソリン、軽油、灯油の合計値です。

環境目標の二酸化炭素排出量は、電気と燃料の二酸化炭素排出量を消費電力及び使用燃料の合算により二酸化炭素排出量を算出しています。また電力の二酸化炭素排出量は、関西電力の2018年調整後係数(0. 334kg-CO2/kWh)を使用しています。

自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する項目としては、社有車の排気ガスがある。車を買替える場合は、ハイブリッドなど燃費の良い車にする計画である。

参考:売上高の基準年(24年度)からの増加量
・・・約1.7倍(9章欄外の原単位計算に使用)

9 2023年4月～2024年3月 取り組み結果及び評価

取り組み結果

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×まったくできなかった

項目	2020年(基準値) 2020.4～2021.3	環境目標 2023.4～2024.3	2023年度実績 2023.4～2024.3	達成率 %	評価
二酸化炭素排出量削減(kg-CO2)	492,161	469,522	403,212	116%	◎
電気使用量の低減(kWh)	288,241	274,982	263,662	104%	◎
ガソリン低減(L)	1,761	1,680	1,224	137%	◎
軽油使用量低減(L)	151,842	144,857	121,021	120%	◎
都市ガス使用量低減(Nm3)	25	24	12	192%	◎
産業廃棄物リサイクル化促進(%)	-	100%	100% (255467t)	100%	◎
節水(m3)	1600	1526	1459	105%	◎
グリーン購入の促進(件)	-	4件	4件	100%	◎
化学物質の使用はありません					

粉塵対策として水を散水

購入電力の排出係数:0.334kg-CO2/kWh(2018年の関電の調整後排出係数)

売上高が基準年^(2020年541百万円)から1.1倍増加していることを考えると、原単位ベースでは目標を達成している。
総量:CO2排出量=(403,161)^(2023年)/(492,161)^(2020年)=0.82 → (売上)^(2023年)/(売上)^(2020年)=1.1を考えると、非常に努力している。
総量:軽油使用量=(121,021)^(2023年)/(151,842)^(2020年)=0.80 → (売上)^(2023年)/(売上)^(2020年)=1.1を考えると、非常に努力している。
総量:節水=(1,459)^(2023年)/(1,600)^(2020年)=0.9 → (売上)^(2023年)/(売上)^(2020年)=1.1であるが、粉塵対策に配慮しながら努力している。
今後、原単位として売上高あたりの目標値を考える。

10 環境経営計画及び取組結果とその評価、今後の方向

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×まったくできなかった

取組み計画	達成状況	評価(結果と今後の方向)
電力による二酸化炭素排出量の削減		
電気使用量の低減	○	受け入れ減少の影響もあり達成
冷暖房温度の設定	○	ポスターで呼びかけ注意を促す
不要照明の消灯	○	時間に関係なく人のいない場所では消灯の徹底
水銀灯をLED照明などの転換	○	工場の照明をLEDに転換した。継続して行く。
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減(自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する項目を含む)		
軽油使用量低減	○	受け入れ減少の影響もあり達成(原単位で評価すると○)
アイドリングストップ	○	掲示板の掲示し各ドライバーへ周知
急加速の抑制	○	
一般廃棄物の削減		
裏紙使用	○	メモ用紙など裏面を利用
古紙のリサイクル化	○	保管が過ぎた伝票類は古紙業者へひきとってリサイクルへ
グリーン購入		
	○	エコ商品を購入していく
社会貢献		
環境美化	○	工場近隣の清掃活動

その他:空調・車両冷媒漏えい有無の毎月の確認 ◎

11 環境経営計画(2024年度)

2024年度の活動計画は下記の通りである。

- 電力による二酸化炭素排出量の削減
- 電気使用量の低減
- 冷暖房温度の設定
- 不要照明の消灯
- 水銀灯をLED照明などの転換推進

自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減(使用車は全て社有車。自らが提供するサービスに関しては、社有車の排気ガス削減がある。)

- 軽油使用量低減
- アイドリングストップ
- 急加速の抑制
- 一般廃棄物の削減
- 裏紙使用
- 古紙のリサイクル化
- グリーン購入
- 社会貢献
- 環境美化
- その他:空調・車両の冷媒(フロン類)の定期的な漏えい有無確認
- 都市ガス使用量削減
- 産廃リサイクル化推進
- 節水推進

12 法的義務を受ける主な環境関連法規制は次のとおりです。

適用される法規制	条項	備考(順守事項)	適用される事項	2024.3.31
改正日 実施事項				遵守確認
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 2017.6.16 事業者の責務	3条	自らの責任で 適正処理	産業廃棄物 (金属クズ、廃プラ、廃ガラス)	○
騒音規制法 2014.6.18 地域の指定	3条	左記の制限値	破碎機、振動フィーダー、 振動篩	○
大気汚染防止法 2017.6.2 破碎機に関わる粉じん発生 施設届出	6.7条	30日以内に知事 に届出	がれき、再生品ストックヤード ベルトコンベヤ、破碎機、 振動篩	○
オフロード法 2020.5.27 事業者の責務		左記設備に適用	ホイロロウダー、バックホウ	○
フロン排出抑制法 2015.4.1		漏洩チェックの 点検・記録	ホイロロウダー、バックホウ	○

環境関連法規制などの遵守状況の評価の結果、環境関連法規制などは遵守されていました。
なお、違反、訴訟なども過去3年間ありませんでした。
また、近隣や顧客からの苦情ありません。

13 代表者による全体の評価と見直し・指示

年間を通して目標達成に努力した。全項目、目標達成する事が出来ました。これは、重機の使用方法を見直した事が要因。

今後売り上げあたりの原単位目標を検討する。

環境経営方針、実施体制については、現状を維持する。

令和6年7月1日

代表取締役 張 良彦